VI-1-1-5-8-2 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書 (その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備))

目 次

1.	概要		$\cdot \cdot 1$
2.	消火割	受備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••3
2.	1 容器	물	••3
	2.1.1	二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••3
	2.1.2	小空間固定式消火設備ハロゲン化物ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••7
	2. 1. 3	SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備ハロゲン化物ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•83
	2.1.4	電源盤・制御盤消火設備ハロゲン化物ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·87
	2. 1. 5	ケーブルトレイ消火設備ハロゲン化物ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•92
	2.1.6	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ボンベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	199
2.	2 主酉	己管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	206
	2. 2. 1	水系消火設備主配管 ······	206
	2. 2. 2	二酸化炭素消火設備主配管 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	208
	2. 2. 3	小空間固定式消火設備主配管 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	216
	2. 2. 4	SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備主配管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	301
	2. 2. 5	電源盤・制御盤消火設備主配管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	318
	2. 2. 6	ケーブルトレイ消火設備主配管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	323
	2. 2. 7	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備主配管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	430

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備)の申請設備に係る仕様設定根拠について説明するものである。

以下の設備の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-1-1-8-2「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書(その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備))」による。

- ・電動機駆動消火ポンプ(5号機設備,6,7号機共用)
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ(5号機設備,6,7号機共用)
- ・ろ過水タンク(5号機設備,6,7号機共用)
- ・7号機 C/B 計測制御電源盤区域(B) 送風機室用ハロゲン化物ボンベ (6,7号機共用)
- ・使用済樹脂デカントポンプ室用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・7号機、6号機復水移送ポンプ室用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・RW/B 地下 3 階通路用ハロゲン化物ボンベ(6,7 号機共用)
- ・配管室(RW/B B2F 北東),配管室(RW/B B1F 北西)用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・RW/B 地下1階通路(B)用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・RW 電気品室用ハロゲン化物ボンベ (6,7 号機共用)
- ・6 号機,7号機 MG 電気品室用ハロゲン化物ボンベ (6,7号機共用)
- ・RW/B~C/B 間クリーンアクセス通路用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・6号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベ(6,7号機共用)
- ・6 号機 HNCW 冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ (6,7 号機共用)
- ・配管室 (R/B B3F 北西) 用ハロゲン化物ボンベ (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・配管室・連絡トレンチ (R-B2F-21) 用ハロゲン化物ボンベ (7 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・A系計装用電源室用ハロゲン化物ボンベ (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・階段室(An/A 3F 北西)前室用ハロゲン化物ボンベ(7号機設備,6,7号機共用)
- No. 3, 4 ろ過水タンク (山側ノズル) ~電動機駆動消火ポンプ (5 号機設備, 6, 7 号機共用)
- No. 3, 4 ろ過水タンク (海側ノズル) ~ディーゼル駆動消火ポンプ 5A, ディーゼル駆動消火ポンプ 5B (5 号機設備, 6, 7 号機共用)
- ・給水建屋内分岐点(ポンプ吸込側)~大湊側 D/D ポンプ建屋内分岐点(5 号機設備, 6,7 号機 共用)
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ 5A, ディーゼル駆動消火ポンプ 5B~U43-F023 (5 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・電動機駆動消火ポンプ~U43-F023(5 号機設備,6,7 号機共用)
- ・給水建屋内分岐点(ポンプ吐出側)~U43-F069 及びU43-F096(5 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・5号機原子炉建屋供給ライン分岐点~5号機 U43-F051(5号機設備、6,7号機共用)
- ・トレンチ内第 1 分岐点(U43-F022) ~廃棄物処理建屋西側分岐点(6,7 号機共用)
- ・トレンチ内第2分岐点(U43-F024)~トレンチ内第3分岐点(U43-F024)(6,7号機共用)
- · U43-F052~U43-F029 (6,7 号機共用)
- ・U43-F069~U43-F051(7 号機設備, 6,7 号機共用)

- ・U43-F051~U43-F052 (7 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・7 号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送風機室用ハロゲン化物ボンベ~7 号機 C/B 計測制御電源盤 区域(B)送風機室(6,7 号機共用)
- ・使用済樹脂デカントポンプ室用ハロゲン化物ボンベ〜使用済樹脂デカントポンプ室(6,7号機 共用)
- ・7号機,6号機復水移送ポンプ室用ハロゲン化物ボンベ~7号機,6号機復水移送ポンプ室(6,7号機共用)
- ・RW/B 地下 3 階通路用ハロゲン化物ボンベ~RW/B 地下 3 階通路(6,7 号機共用)
- ・配管室 (RW/B B2F 北東),配管室 (RW/B B1F 北西) 用ハロゲン化物ボンベー分岐点 (T6) (6,7 号機共用)
- ・分岐点 (T333) ~配管室 (RW/B B2F 北東) (6,7号機共用)
- ・分岐点(T6)~配管室(RW/B B1F 北西)(6,7号機共用)
- ・RW/B 地下 1 階通路 (B) 用ハロゲン化物ボンベ~RW/B 地下 1 階通路 (B) (6,7 号機共用)
- ・RW 電気品室用ハロゲン化物ボンベ~RW 電気品室(6,7 号機共用)
- ・6 号機,7号機 MG 電気品室用ハロゲン化物ボンベ~6 号機,7号機 MG 電気品室(6,7号機共用)
- ・RW/B~C/B 間クリーンアクセス通路用ハロゲン化物ボンベ~RW/B~C/B 間クリーンアクセス通路(6,7号機共用)
- ・6号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベ~6号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送・排風機室(6,7号機共用)
- ・6 号機 HNCW 冷凍機室用ハロゲン化物ボンベー6 号機 HNCW 冷凍機室 (6,7 号機共用)
- ・配管室 (R/B B3F 北西) 用ハロゲン化物ボンベ~配管室 (R/B B3F 北西) (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・配管室・連絡トレンチ (R-B2F-21) 用ハロゲン化物ボンベ~配管室・連絡トレンチ (R-B2F-21) (7 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・A 系計装用電源室用ハロゲン化物ボンベ~A 系計装用電源室 (7 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・階段室 (An/A 3F 北西) 前室用ハロゲン化物ボンベ〜階段室 (An/A 3F 北西) 前室 (7号 機設備,6,7号機共用)

2. 消火設備

2.1 容器

2.1.1 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ

名	称	, 用 二酸化炭素ボンベ
容量	L/個	68 以上(68)
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数		25

【設定根拠】

(概要)

火災発生時の煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する

用二酸化炭素ボンベは,以下の機能を

有する。

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性 が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型の二酸化炭素ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68L/個以上とする。

公称値については、要求される容量と同じ68L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同様の 10.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用温度は,消防法施行規則第 19 条第 5 項第六号ロにより 40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消火剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要ボンベ個数*より1個多い25個のボンベを設置する設計とする。

注記*:消防法施行規則第19条第4項第一号ロにおいて定められている消火に必要な消火剤 量により算出。

名	称	用二酸化炭素ボンベ
容量	L/個	68 以上(68)
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	25

(概要)

火災発生時の煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用二酸化炭素ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性 が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型の二酸化炭素ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68L/個以上とする。

公称値については、要求される容量と同じ68L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同様の 10.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用温度は,消防法施行規則第 19 条第 5 項第六号ロにより 40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消火剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とし、消防法で要求される必要なボンベ個数*である25個のボンベを設置する設計とする。

注記*:消防法施行規則第19条第4項第一号ロにおいて定められている消火に必要な消火剤 量により算出。

2.1.2 小空間固定式消火設備ハロゲン化物ボンベ

名	称	TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	32

【設定根拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である32個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	27

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する

用ハロゲン化物ボンベは

以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である27個のボンベを設置する設計とする。

名称		T/A B2F ケーブル (Ⅰ) (Ⅲ)・配管トレンチ用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	9

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する T/A B2F ケーブル (I)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である9個のボンベを設置する設計とする。

名称		T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	10

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である10個のボンベを設置する設計とする。

名	称 	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	25

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である25個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	33

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である33個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68. IL/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68. IL/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	6

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である6個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	6

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である6個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	6

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である6個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する ■ 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	HCU 室(西側)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HCU 室(西側) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	HCU 室(東側)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数		4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HCU 室(東側) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HPAC ポンプ室 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP・CRD 取扱 装置制御室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	CRD モータ試験室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD モータ試験 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名称		TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	8

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である8個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	非管理区域入口室(R/B 1F 北)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
個 数	_	3

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域入口室(R/B 1F 北)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。

名称		電気ペネ室(R/B 1F 東)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する FCS 再結合装置 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	非管理区域入口室(R/B 1F 南)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域入口室(R/B 1F 南)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC・電気ペネ 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	40 以上(40)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する IA・HPIN ペネ 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である40L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 40L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	3

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	電気ペネ室(R/B 2F 南)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数		2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	ASD 出力トランス(D)(J)室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する ASD 出力トランス(D)(J)室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	3

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。

名	称	ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する ASD 出力トランス(A)(F) 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	SGTS 室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SGTS 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数		5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する北側 FMCRD 制御 盤室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する DG(B)/Z 送風機 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する南側 FMCRD 制御 盤室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	3

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MS トンネル室 空調機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。

名	称	配管室(R-1-28)用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	RIP・CRD 補修室,ケーブル室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	12

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP・CRD 補修 室、ケーブル室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である12個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	9

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要なボンベ個数*より1個多い9個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	14

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である14個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	8

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である8個のボンベを設置する設計とする。

名称		A 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室, AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	8

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する A 系 HPIN 窒素 ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室, AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である8個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	RIP 点検室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	82.5以上(82.5)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP 点検室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である82.5L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ82.5L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名称		B系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B) サージタンク室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	7

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する B 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である7個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68. IL/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機常用バッテリー(250V・48V)室用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機常用バッテリー (250V・48V) 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	5

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)送風機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 C/B 計測制御電源盤区域 (C) 送風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	115.4以上(115.4)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	9

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する___

用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である115.4L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ115.4L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要なボンベ個数*より1個多い9個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(A) 送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	非管理区域アクセス通路(C/B B1F)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	7

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域アクセス通路(C/B B1F)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である7個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機常用ケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	24 以上(24)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 24.0L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ24.0L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機区分 I ケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機区分 I ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機区分Ⅱ ケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機区分 II ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機区分Ⅲケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機ダクトスペース(C-3-7)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	24 以上(24)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 24.0L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ24.0L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機中央制御室再循環フィルタ装置室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機中央制御 室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機中央制御室送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	12

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機中央制御 室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である12個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機ケーブル処理室(C-4-2)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68 以上(68)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機ケーブル 処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	パイプスペース(R-1-29)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置するパイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R/B~C/B 区分 I トレンチ用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	9

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R/B~C/B 区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である9個のボンベを設置する設計とする。

名称		6 号機常用電気品室, 6 号機常用バッテリー(250V)室, R/B~C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
個 数	_	46

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機常用電気品室、6 号機常用バッテリー(250V)室、 $R/B\sim C/B$ 区分 $II \cdot III \cdot IV$ トレンチ用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要なボンベ個数*より1個多い46個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機下部中央制御室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数		3

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機下部中央 制御室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機プロセス計算機室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	10

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機プロセス 計算機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である10個のボンベを設置する設計とする。

名	称	6 号機計算機用トランス室用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	68.1以上(68.1)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6 号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。

2.1.3 SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備ハロゲン化物ボンベ

名	称	SLC ポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	70 以上(70)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

【設定根拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である70L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ70L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	SLC ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	70 以上(70)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である70L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ70L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。

名	称	CRD ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	70以上(70)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である70L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ70L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

名	称	CRD ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	70以上(70)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
個 数	_	4

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である 70L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ70L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。

2.1.4 電源盤・制御盤消火設備ハロゲン化物ボンベ

名	称	MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	2

【設定根拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6A-2-1 用 ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき MCC 6A-2-1 (電源盤) の消火に必要なボンベ個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6B-2-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき MCC 6B-2-1 (電源盤) の消火に必要なボンベ個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき MCC 6SB-1 (電源盤) の消火に必要なボンベ個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	MCC 6S 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6S 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

MCC 6S 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき MCC 6S (電源盤) の消火に必要なボンベ 個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき CUW FPC F/D 盤の消火に必要なボンベ個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。

2.1.5 ケーブルトレイ消火設備ハロゲン化物ボンベ

名		R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

【設定根拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-1 用 ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全 性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-①−2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-3-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-3-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-3-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-3-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-3-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-3-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-④-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-@-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-@-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-④-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-@-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-@-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-①−1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40° におけるボンベ内圧と同じ 4.6 MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-①−3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40° におけるボンベ内圧と同じ 4.6 MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-1 用 ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40° におけるボンベ内圧と同じ 4.6 MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40° におけるボンベ内圧と同じ 4.6 MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40° におけるボンベ内圧と同じ 4.6 MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-4 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-4 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-5 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-5 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-6 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-6 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-7 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-7 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-3-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-3-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-3-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-3-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-3-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-3-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-④-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-4-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-4-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-④-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-4-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-4-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑥−1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑥-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑥-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑥-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑦-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑦-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑦-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑦-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-①−2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-①−3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-③-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-3-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-3-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-3-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-3-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-@-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-@-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-@-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-@-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-3 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-@-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-@-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-4 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-@-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-@-4 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-5 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-4-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-4-5 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-2 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-3 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑥-1 用 ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑥-1 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-B1F-⑥−2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑥-2 の消火に必要なボンベ 個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき R-1F-①-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき R-1F-①-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき R-1F-①-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-①-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-①-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-①-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-2-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-2-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-2-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-2-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-2-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-2-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-2-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-2-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-2-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-3-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-3-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-3-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-3-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-3-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-3-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-③-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-3-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-3-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-③-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-3-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-3-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-4-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-4-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-4-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-4-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-4-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-4-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-4-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-4-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-①-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-①-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき R-2F-①-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-2-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-2-6 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-2-6 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-③-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-3-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-3-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-③-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-3-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-3-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-①-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-1-2 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき R-3F-1-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-①-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-①-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-①-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-①-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-①-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-①-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-①-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	C−1F−①−1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

C-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき C-1F-①-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	C−1F−①−2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

C-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき C-1F-①-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	C-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

C-1F-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき C-1F-2-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	C−1F−②−2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

C-1F-2-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき C-1F-2-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	C-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

C-1F-2-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき C-1F-2-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-6 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-7 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-4-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-4-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-4-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-4-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-4-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-4-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-2F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-2F-4-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-2F-4-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-2-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-2-2 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-2-2 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

名	称	R-3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

【設 定 根 拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である L/個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ L/個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。

4. 個数

R-3F-2-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-3F-2-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。

2.1.6 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ボンベ

名称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	4

【設定根拠】

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / 個以上とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する 場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5. 2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は,消防法施行規則に基づき,40℃とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベは, 試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である4個のボンベを設置する設計とする。

名称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	2

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分 I)用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である2個のボンベを設置する設計とする。

名称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(区分II)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である1個のボンベを設置する設計とする。

名	弥	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (区分Ⅲ) 用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である1個のボンベを設置する設計とする。

名	弥	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である1個のボンベを設置する設計とする。

名	弥	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA (I))用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(SA (I))用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(I))用ハロゲン化物ボンベは,試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である1個のボンベを設置する設計とする。

名	弥	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA (Ⅱ))用 ハロゲン化物ボンベ
容量	L/個	
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
個 数	_	1

(概要)

火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床 下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロゲン化物ボンベは,以下の機能を有する。

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。

1. 容量

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は,高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから,当該ボンベの容量はメーカにて定めた容量である / 個以上とする。

公称値については要求される容量と同じ /個とする。

2. 最高使用圧力

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。

3. 最高使用温度

設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40 とする。

4. 個数

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である1個のボンベを設置する設計とする。

2.2 主配管

2.2.1 水系消火設備主配管

名	称	6 号機原子炉建屋供給ライン分岐点 〜 6 号機原子炉建屋内第 1 分岐点
最高使用圧力	MPa	1. 37
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	66
外径	mm	114. 3

【設定根拠】

(概要)

本配管は、6号機原子炉建屋供給ライン分岐点と6号機原子炉建屋内第1分岐点を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管のうち屋内に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋内消火栓設備の最高使用圧と同じ1.37MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、屋内の室温 40℃を考慮し、余裕をもって 66℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、消防法施行令第 11 条、第 19 条及び消防法施行規則第 18 条で求めている 条件で消火設備を使用した場合を想定し、個々の水系消火設備が必要とする圧力損失に対し、 ポンプの揚程が許容できる外径を選定し、114.3mm とする。

名	称	6 号機タービン建屋供給ライン分岐点 〜 6 号機タービン建屋内第 1 分岐点
最高使用圧力	MPa	0.98, 1.37
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	66
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は、6号機タービン建屋供給ライン分岐点と6号機タービン建屋内第1分岐点を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

1.1 最高使用圧力 0.98MPa

本配管のうち屋外に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋外消火栓設備の最高使用圧力と同じ 0.98MPa とする。

1.2 最高使用圧力 1.37MPa

本配管のうち屋内に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋内消火栓設備の最高使用圧力と同じ 1.37MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、屋内の室温 40℃を考慮し、余裕をもって 66℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、消防法施行令第 11 条、第 19 条及び消防法施行規則第 18 条で求めている 条件で消火設備を使用した場合を想定し、個々の水系消火設備が必要とする圧力損失に対し、 ポンプの揚程が許容できる外径を選定し、114.3mm とする。

2.2.2 二酸化炭素消火設備主配管

名称		用 二酸化炭素ボンベ ~ U43-ESV-2			
最高使用圧力	MPa	10.8			
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40			
外 径	mm	27. 2, 42. 7, 60. 5, 89. 1			
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は, ボンベと U43-ESV-2		用二酸化炭素 配管であり, 上火災を早期に消火するために設置する。			
用二酸化炭素2. 最高使用温度	本配管の最高使用圧力は, 用二酸化炭素ボンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。				
	本配管の最高使用温度は, 用二酸化炭素ボンベの最高使用温度と同じ 40°Cとする。				
3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 1.4MPa 以上* ¹ 及び消火に必要な二酸化炭素ガス 量* ² を 1 分以内* ³ に放出可能であることをメーカにて確認している 27.2mm, 42.7mm, 60.5mm, 89.1mm とする。					
压力 * 2 :消防	ı	第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射 第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸			
*3 :消防	ī法施行規貝	川第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間			

名称		U43−ESV−2 ~	
最高使用圧力	MPa	10.8	
最高使用温度	$_{\mathbb{C}}$	40	
外径	mm	42.7, 89.1	
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、U43-ESV-2と た接続する配管であり、 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。 1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 用二酸化炭素ボンベの最高使用圧力と同じ 10.8MPa とする。			
 最高使用温度 本配管の最高使用温度は, 用二酸化炭素ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 1. 4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を 1分以内*3に放出可能であることをメーカにて確認している 42.7mm, 89.1mm とする。 			
注記*1 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射 圧力 *2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸 化炭素ガス量 *3 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間			

名	弥	共給ライン分岐点 ~
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}\! C$	40
外径	mm	76. 3
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は, 火災を早期に消火す 1. 最高使用圧力	-4	ン分岐点と を接続する配管であり, 内で発生した 置する。
本配管の最高使 用二酸化炭素		高使用圧力と同じ10.8MPaとする。
3. 外径	ボンベの最	高使用温度と同じ 40℃とする。
		・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス 色であることをメーカにて確認している 76.3mm とする。
注記*1 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射 圧力		
*2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸 化炭素ガス量		
*3 :消防	法施行規則	第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間

		_
名	称	供給ライン分岐点 ~
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	42.7, 89.1
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は, 続する配管であり, 1. 最高使用圧力		おライン分岐点と 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
2. 最高使用温度 本配管の最高使	ボンベの最 所温度は,	最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。
量* ² を1分以内* [:]	³ に放出可能 が法施行規則	・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス をであることをメーカにて確認している 42.7mm, 89.1mm とする。 川第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射
*2 :消防 化炭	が法施行規則 対素ガス量	川第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸 川第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間

名	弥	供給ライン分岐点 ~
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	76. 3
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は, 災を早期に消火する 1. 最高使用圧力		ン分岐点と を接続する配管であり, で発生した火 引する。
本配管の最高使	用圧力は,	
用二酸化炭素	ボンベの最	と高使用圧力と同じ10.8MPaとする。
2. 最高使用温度 本配管の最高使		と高使用温度と同じ40℃とする。
3. 外径 本配管の外径は	,噴射へッ	・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上* ¹ 及び消火に必要な二酸化炭素ガス もであることをメーカにて確認している 76.3mm とする。
注記 * 1 :消防 圧力		第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射
	法施行規則 素ガス量	第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸
*3 :消防	法施行規則	川第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間

<i>t</i> 7	Ωl-	二酸化炭素ボンベ
名	称	~
		U43-ESV-1
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	42.7, 48.6, 60.5, 89.1
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用二酸化炭素ボンベとU43-ESV-1を接続する配管
であり,		内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	原用圧力は,	用二酸化炭素ボンベの最高使用
圧力と同じ10.8MF	Paとする。	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用二酸化炭素ボンベの最高使用
温度と同じ40℃と	こする。	
3. 外径		
本配管の外径は	、噴射へッ	・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス
量*2を1分以内*	『に放出可能	きであることをメーカにて確認している 42.7mm, 48.6mm, 60.5mm,
89.1mm とする。		
注記 * 1 :消防 圧力		第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射
*2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二		
化炭素ガス量		
]第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間

			U43-ESV-1	
	名	称	\sim	
	Г			
最高	高使用圧力	MPa	10. 8	
最高	高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40	
外	径	mm	42.7, 89.1	
【設	定根拠】			
(概	要)			
本	記管は, U43-ES	SV-1 と	を接続する配管であり,	
内	で発生した火災	を早期に消	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1.	最高使用圧力			
	本配管の最高使	[用圧力は,	用二酸化炭素ボンベの最高使用	
圧	力と同じ10.8MF	Paとする。		
2.	最高使用温度			
	本配管の最高使用温度は、用二酸化炭素ボンベの最高使			
温	温度と同じ40℃とする。			
3.	外径			
	本配管の外径は	、噴射へッ	・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス	
量	:* ² を1分以内* ⁵	『に放出可能	€であることをメーカにて確認している 42.7mm, 89.1mm とする。	
	注記*1:消防	i法施行規則	第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射	
	圧力			
	*2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二階			
	化炭素ガス量			
	*3 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間			
	10 . 1119.			

名	弥	共給ライン分岐点 ~
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	${}^{\sim}$	40
外 径	mm	76. 3
【設定根拠】		
(概要)	٦	
本配管は、		ン分岐点と を接続する配管であり、 内で発生した
火災を早期に消火す	るために設	直する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は、	用二酸化炭素ボンベの最高使用
圧力と同じ10.8MP		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使用温度は,		用二酸化炭素ボンベの最高使用
温度と同じ40℃とする。		
0 41/77		
3. 外径 木型笠の外径は	唐針へ、	、いのお針に力な 1 AMP。PLL*1 及び遊ルに立西な二輪ル豊実ギュ
		・ドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス 色であることをメーカにて確認している 76.3mm とする。
重 [17]		
注記*1 : 消防	法施行規則	第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射
圧力		
*2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な 化炭素ガス量		
*3 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間		
1 3 1 114124	127907	17/0 2° 7/7/0 = 7/7/0 = 3 (= 4 = 1 = 4 /2 - 7 /2 /2 /2 /4 (1 = 4 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2 /2

2.2.3 小空間固定式消火設備主配管

		TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		TCW ポンプ・熱交換器室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3, 48. 6, 42. 7

【設 定 根 拠】

(概要)

本配管は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベと TCW ポンプ・熱交換器室を接続する配管であり、TCW ポンプ・熱交換器室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1mm, 76.3mm, 48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

名	称	用ハロゲン化物ボンベ ~
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3, 60. 5, 48. 6, 42. 7
【設定根拠】	_	
(概要)		
本配管は,		
用ハロゲン化物ボン	ノベと	
を接続	する配管で	あり,
	内で	 発生した火災を早期に消火するために設置する。
 最高使用圧力 本配管の最高の よるでは、 2. 最高使用温度 		ゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5. 2MPa とする。
本配管の最高値	吏用温度は,	
	用ハロク	
	は,噴射へ ₃ 【内* ³ に放射	ッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*1及び消火に必要なハロン 1301 ガ 可能であることをメーカにて確認している 89.1mm, 76.3mm,
注記*1 : 消[方法施行規則	川第 20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		T/A B2F ケーブル (Ⅰ) (Ⅲ)・配管トレンチ用
名	称	ハロゲン化物ボンベ~
		T/A B2F ケーブル(Ⅰ)(Ⅲ)・配管トレンチ
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	76. 3, 60. 5, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、T/A B2F ケーブル(I)(III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベと T/A B2F ケーブル(I)(III)・配管トレンチを接続する配管であり、T/A B2F ケーブル(I)(III)・配管トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、T/A B2F ケーブル(I)(III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5. 2MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、T/A B2F ケーブル(I)(III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 Cとする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	76. 3, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、T/A B2F ケーブル(II)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベと T/A B2F ケーブル (II)・配管トレンチを接続する配管であり、T/A B2F ケーブル (II)・配管トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、T/A B2F ケーブル (II)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、T/A B2F ケーブル (II)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 C とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 76.3mm, 48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		用
名		ハロゲン化物ボンベ~
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	76. 3, 60. 5, 48. 6, 42. 7
【設定根拠】	·	
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと
	を	≧接続する配管であり,
内で発生した火	災を早期に消	り火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボン
べの最高使用圧力	と同じ 5.2MPa	aとする。
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボン
べの最高使用温度	と同じ40℃と	とする。
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘッド	ドの放射圧力を 0.9MPa 以上*1及び消火に必要なハロン 1301 ガ
ス量*2を30秒以内	勺*3に放射可i	能であることをメーカにて確認している 76.3mm, 60.5mm,
48.6mm, 42.7 mm と	する。	
		5 20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射		
		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消火	····
*3 :消防 	法施行規則第	520条第1項第三号において定められている放射時間

		用
名	称	ハロゲン化物ボンベ〜
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3, 48. 6, 42. 7
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと
		接続する配管であり,
内で発生した火	災を早期に消火	するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使		用ハロゲン化物ボン
べの最高使用圧力	と同じ 5.2MPa d	とする。
2. 最高使用温度		The second of th
本配管の最高使		用ハロゲン化物ボン
べの最高使用温度	[と同し400とす	
3. 外径		
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	放射圧力を 0.9MPa 以上*1及び消火に必要なハロン 1301 ガ
		であることをメーカにて確認している 89.1mm, 76.3mm,
48.6mm, 42.7 mm 2		
40. Omin, 42. 1 min C	- 1 · 0 0	
 注記 * 1 · 消防	法施行規則第 2	0条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
	·压力	
,,,,,,	.,	0条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消火剤	
		・ 0 条第1項第三号において定められている放射時間
	. IE-4014 /90/11/14 0	- 21-21 - 2214 - 41-4-1 - 12-2 24 4 1 - 41-41-41-41-41

名	弥	用ハロゲン化物ボンベ
	140	
最高使用圧力	MPa ∞	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	48. 6, 42. 7
【設定根拠】		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと
接続する配管であり		
する。	,	
, 20		
 1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧
力と同じ 5.2MPa a	_	<u></u>
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温
度と同じ40℃とす	-る。	
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘッ	ドの放射圧力を 0.9MPa 以上*1及び消火に必要なハロン 1301 ガ
ス量*2を30秒以口	内*3に放射で	可能であることをメーカにて確認している 48.6mm, 42.7 mmとす
る。		
NA STATE OF THE ST	.\ . . 	
		第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
	·圧力 :汝歩〜世間	第 90 久 第 9 百 第 「円 12 49 1 マウルこれ て 1 1 7 2 14 1 17 17 更み
	伝肔11規則 ゲン化物消	第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ル刻景
		八利里 第20条第1項第三号において定められている放射時間
	14470011725月	カ 40 木材 1 次対一 41と401、くためり41 くいる/氷利町

		用ハロゲン化物ボンベ
名		~
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	${\mathcal C}$	40
外 径	mm	48. 6, 42. 7
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベとを
接続する配管であり	,	内で発生した火災を早期に消火するために設置
する。		
1. 最高使用圧力 本配管の最高使	田広力は	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧
本配官の最高使 力と同じ 5.2MPa と	<u></u>	用バログラ化物がラベの取同使用圧
7) C F] C 3. 2MI a 6	- 1 W o	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温
度と同じ40℃とす	-る。	
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘット	「の放射圧力を 0.9MPa 以上*1及び消火に必要なハロン 1301 ガ
ス量*2を30秒以降	内*3に放射可	能であることをメーカにて確認している 48.6mm, 42.7mmとす
る。		
NA == NA PH	· _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ \	
	法施行規則第 圧力	520条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
		§ 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消火	
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	5 20 条第1項第三号において定められている放射時間

名		用ハロゲン化物ボンベ ~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は, 続する配管であり, る。 1. 最高使用圧力 本配管の最高使 力と同じ4.8MPa と 2. 最高使用温度		用ハロゲン化物ボンベと 内で発生した火災を早期に消火するために設置す 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧
本配管の最高使 度と同じ40℃とす		用ハロゲン化物ボンベの最高使用温
		の放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。
放射 *2 :消防 ハロ	圧力 法施行規則第 ゲン化物消火	20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 20条第3項第一号において定められている消火に必要な 剤量 20条第1項第三号において定められている放射時間

		用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1, 76. 3
【設定根拠】		
(概要)		<u></u>
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベとを扱
続する配管であり,		内で発生した火災を早期に消火するために設置す
る。		
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使		用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧
力と同じ4.8MPa &	とする。	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使 本配管の最高使	田温度け	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温
度と同じ40℃とす		717 とグマ 旧初かる ジ放開及用皿
	3 0	
3. 外径		
本配管の外径は	、噴射ヘッドの	の放射圧力を 0. 3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC−227ea ガス
量*2を10秒以内*	*3に放射可能で	であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす
る。		
注記*1 :消防	法施行規則第二	20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射	圧力	
*2 :消防	法施行規則第	20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消火剤	
*3 :消防	法施行規則第	20条第1項第三号において定められている放射時間

		用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	~
	<u> </u>	
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと
続する配管であり、		内で発生した火災を早期に消火するために設置す
る。 		
 1. 最高使用圧力		
本配管の最高使 本配管の最高使	田圧力は	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧
本記書の最高度 力と同じ4.8MPa る		加ァークショロのハン・ジの取削反加圧
7,5 C [1,4 O 1, Olin a 6	_ / 🗸 0	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温
度と同じ40℃とす	-る。	
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射へッ	,ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内、	*3に放射可	能であることをメーカにて確認している89.1mm,76.3mmとす
る。		
		川第 20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
	性 一	
		川第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	·····
*3:消防	活施行規則	川第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間
1		

		用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1, 76. 3
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと
■を接続する配管で	あり,	内で発生した火災を早期に消火するため
に設置する。		
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	頂圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用
圧力と同じ 4.8MP	a とする。	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用
温度と同じ40℃と	こする。	
3. 外径		
本配管の外径は	、噴射ヘッ	ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内*	*3に放射可能	能であることをメーカにて確認している89.1㎜,76.3㎜とす
る。		
注記*1:消防	法施行規則	第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
	圧力	
·		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	. ,,,
*3:消防	法施行規則	第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間

		用ハロゲン化物ボンベ
名	尔	~
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外 径	mm	89. 1, 76. 3
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,	J	用ハロゲン化物ボンベとを接続する配管であり、
内で	で発生した。	火災を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ
4.8MPa とする。		
2. 最高使用温度	_	
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ
40°Cとする。		
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘッ	ルドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内*	3に放射可	能であることをメーカにて確認している89.1 mm,76.3 mmとす
る。		
		川第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射		
		川第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	······
*3 :消防	法施行規則	川第20条第1項第三号において定められている放射時間

		用ハロゲン化物ボンベ	
名	弥	~	
最高使用圧力	MPa	4. 8	
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40	
外径	mm	89. 1, 76. 3	
【設定根拠】			
(概要)			
本配管は,	F	用ハロゲン化物ボンベと を接続する配管であり,	
内で	で発生したが	火災を早期に消火するために設置する。	
1. 最高使用圧力			
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ	
4.8MPa とする。			
2. 最高使用温度	_		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ	
40℃とする。			
3. 外径			
		ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス	
量* ² を 10 秒以内*	(3に放射可能	能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす	
る。			
No. 25 No. 10	N. 17.7-19.9.		
		第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの	
	·圧力	the second secon	
·	*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な		
	ゲン化物消		
*3:消防		第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間	

		HCU 室(西側)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		HCU 室(西側)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3

(概要)

本配管は、HCU室(西側)用ハロゲン化物ボンベとHCU室(西側)を接続する配管であり、HCU室(西側)内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、HCU室(西側)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、HCU室(西側)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		HCU 室(東側)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		HCU 室(東側)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3

(概要)

本配管は、HCU室(東側)用ハロゲン化物ボンベと HCU室(東側)を接続する配管であり、HCU室(東側)内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、HCU室(東側)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、HCU室(東側)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		HPAC ポンプ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外 径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ボンベと HPAC ポンプ室を接続する配管であり、HPAC ポンプ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40° C とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		RIP・CRD 取扱装置制御室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3

(概要)

本配管は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ボンベと RIP・CRD 取扱装置制御室を接続する配管であり、RIP・CRD 取扱装置制御室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		CRD モータ試験室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		CRD モータ試験室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ボンベと CRD モータ試験室を接続する配管であり、 CRD モータ試験室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		TIP 駆動装置現場制御盤室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外 径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベと TIP 駆動装置現場制御盤室を接続する配管であり、TIP 駆動装置現場制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は, TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は, RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベと RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室を接続する配管であり, RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は, RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は, RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上* 1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量* 2 を 10 秒以内* 3 に放射可能であることをメーカにて確認している 114.3 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

名	称	用ハロゲン化物ボンベ ~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 60. 5
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベとを接続する配管
であり,	内	で発生した火災を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	_	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同
じ 4.8MPa とする。		
 2. 最高使用温度		
本配管の最高使 本配管の最高使	用温度は「	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同
じ 40°Cとする。	(7) (3) (IIII) (X) (X)	
3. 外径		
本配管の外径は	、噴射ヘッ	ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内	*3に放射可能	€であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 60.5 mmとす
る。		
		第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
	·圧力 	
		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消火	
*3:消防	活施行規則領	第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間

		非管理区域入口室(R/B 1F 北)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		非管理区域入口室(R/B 1F 北)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ボンベと非管理区域入口室 (R/B 1F 北) を接続する配管であり、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ボンベの最高 使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、非管理区域入口室(R/B 1F 北)用ハロゲン化物ボンベの最高 使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		電気ペネ室(R/B 1F 東)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		電気ペネ室(R/B 1F 東)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3

(概要)

本配管は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ボンベと電気ペネ室 (R/B 1F 東) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		FCS 再結合装置室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベと FCS 再結合装置室を接続する配管であり、 FCS 再結合装置室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		非管理区域入口室(R/B 1F 南)用ハロゲン化物ボンベ
名	除	~
		非管理区域入口室(R/B 1F 南)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ボンベと非管理区域入口室 (R/B 1F 南) を接続する配管であり、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ボンベの最高 使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ボンベの最高 使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		SLC・電気ペネ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベと SLC・電気ペネ室を接続する配管であり、 SLC・電気ペネ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベ
名		\sim
		MSIV 搬出入用機器ハッチ室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベと MSIV 搬出入用機器ハッチ室を接続する配管であり、MSIV 搬出入用機器ハッチ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		IA・HPIN ペネ室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、IA・HPINペネ室用ハロゲン化物ボンベと IA・HPINペネ室を接続する配管であり、IA・HPINペネ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、IA・HPINペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、 $IA \cdot HPIN$ ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40% とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

	1	
		用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外 径	mm	89. 1
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,	用ハ	ロゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生し	た火災を早	期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高値	も用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ
4.8MPa とする。		
2. 最高使用温度		
本配管の最高値	使用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃
とする。		
3. 外径		
		ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量* ² を 10 秒以内	*3に放射可能	能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。
No == No El	LNI U.Z-IBBI	
		第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
	村圧力	the on A the or Title - Discharge - Discha
		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ュゲン化物消	. ,,,=
*3 : 消》	刀齿飑仃規則	第20条第1項第三号において定められている放射時間

	1	
		用ハロゲン化物ボンベ
名		~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外 径	mm	89. 1
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,	用ハ	ロゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生し	た火災を早れ	期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ
4.8MPa とする。		
2. 最高使用温度	–	
本配管の最高使	[用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃
とする。		
3. 外径	do 1	
		ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*4を10秒以内* 	いた放射可能	旨であることをメーカにて確認している89.1 mmとする。
分 ⇒1 № 1	· ››+- +/ / +	☆ 90 夕☆ 1 万竺 - 口 アンロックウはと b マロック時間。 いの
	佐旭11 規則 <i> </i> 圧力	第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
		笠 90 冬笠 9 百笠
		第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
	, ,_,,,,,,	火利軍 第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間
かり ・ 何以	カムが出行 がたり	カ 20 木力 1 欠为 ─ ク (⊂や) * () () () () () () () () ()

		電気ペネ室(R/B 2F 北)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		電気ペネ室 (R/B 2F 北)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ボンベと電気ペネ室 (R/B 2F 北) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	~
		電気ペネ室 (R/B 2F 南)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ボンベと電気ペネ室 (R/B 2F 南) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		ASD 出力トランス (D) (J) 室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、ASD 出力トランス(D) (J) 室用ハロゲン化物ボンベと ASD 出力トランス(D) (J) 室を接続する配管であり、ASD 出力トランス(D) (J) 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、ASD 出力トランス(D)(J)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

名	称	用ハロゲン化物ボンベ
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外 径	mm	89. 1
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,	用ハ	ロゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生し	た火災を早れ	期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	[用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ
4.8MPa とする。		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	[用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃
とする。		
3. 外径		
		ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内	*3に放射可能	もであることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。
		第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
	计 压力	
		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
*3:消以	」	第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間

	ı	
		用ハロゲン化物ボンベ
名		~
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は,	用ハロ	ゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生した火	災を早期に消	肖火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa
とする。		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃と
する。		
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘット	ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内、	*3に放射可能	であることをメーカにて確認している89.1㎜とする。
注記*1 : 消防	法施行規則第	Ř 20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射	圧力	
*2 : 消防	i 法施行規則第	第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
ハロ	ゲン化物消火	火剤量
*3:消防	5 法施行規則第	Ř 20 条第1項第三号において定められている放射時間

	ı	
		用ハロゲン化物ボンベ
名		~
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	89. 1
【設定根拠】		
(概要)		
		1ゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生した火	災を早期に	消火するために設置する。
1. 最高使用圧力	·⊞⊏±¼ 「	田かりだい仏物ギンベの具立体田口もも同じ 4 OMD-
本配管の最高使とする。	.用圧刀は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa
<i>د</i> ۶ گ		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃と
する。	_	
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘッ	ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内、	*3に放射可能	もであることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。
		第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
	性力 化石油机	
		第20条第3項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1/広旭1] 規則	第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間

		ASD 出力トランス(A)(F)室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		ASD 出力トランス (A) (F) 室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、ASD 出力トランス(A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベと ASD 出力トランス(A) (F) 室を接続する配管であり、ASD 出力トランス(A) (F) 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、ASD 出力トランス(A)(F)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40 とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 48.6 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		SGTS 室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		SGTS 室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は、SGTS 室用ハロゲン化物ボンベと SGTS 室を接続する配管であり、SGTS 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SGTS 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SGTS 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 114.3 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		北側 FMCRD 制御盤室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベと北側 FMCRD 制御盤室を接続する配管であり、北側 FMCRD 制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		DG(B)/Z 送風機室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベと DG(B)/Z 送風機室を接続する配管であり、DG(B)/Z 送風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		南側 FMCRD 制御盤室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベと南側 FMCRD 制御盤室を接続する配管であり、南側 FMCRD 制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

11. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 114.3 mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		MS トンネル室空調機室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3

(概要)

本配管は、MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベと MS トンネル室空調機室を接続する配管であり、MS トンネル室空調機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MSトンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、MSトンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量 *2 を 10 秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している 89.1 mm, 76.3 mmとす る。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		配管室(R-1-28)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		配管室(R-1-28)
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ボンベと配管室 (R-1-28) を接続する配管であり、配管室 (R-1-28) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を10秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している114.3mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名称		RIP・CRD 補修室,ケーブル室用ハロゲン化物ボンベ
		~
		RIP・CRD 補修室,ケーブル室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	139. 8, 114. 3

(概要)

本配管は、RIP・CRD補修室、ケーブル室用ハロゲン化物ボンベとRIP・CRD補修室、ケーブル室を接続する配管であり、RIP・CRD補修室、ケーブル室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、RIP・CRD補修室、ケーブル室用ハロゲン化物ボンベの最高使用 圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、RIP・CRD補修室、ケーブル室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40[°]Cとする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している139.8mm, 114.3mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

	I			
		用ハロゲン化物ボンベ		
名		~		
		6U53-F811-17-S1, S2, S3		
最高使用圧力	MPa	4. 8		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40		
外径	mm	114. 3, 76. 3		
【設定根拠】				
(概要)				
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと6U53-F811-17-S1, S2, S3を		
接続する配管であり	,	内で発生した火災を早期に消火するために		
設置する。				
1. 最高使用圧力				
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使		
用圧力と同じ4.8M	Paとする。			
2. 最高使用温度				
本配管の最高使	本配管の最高使用温度は, 用ハロゲン化物ボンベの最高使			
用温度と同じ40℃	とする。			
3. 外径				
		の放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス		
量*2を10秒以内*3 	に放射可能では	あることをメーカにて確認している114.3mm, 76.3mmとする。		
No 🖘	>			
		20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの		
	圧力			
·	*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な			
	ゲン化物消火			
*3:消防		20条第1項第三号において定められている放射時間		

		6U53-F811-17-S1
名	称	~
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外 径	mm	114. 3
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は, 6U53-F	811-17-S1 ਟ	を接続する配管であり,
内で多	発生した火災	を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使
用圧力と同じ4.8M	□Paとする。	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使
用温度と同じ40℃	とする。	
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘット	『の放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内*3	に放射可能で	があることをメーカにて確認している114.3mmとする。
注記*1:消防	5法施行規則第	第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射	圧力	
*2:消防	5法施行規則第	9 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
ハロ	ゲン化物消火	《剤量
*3 : 消防	方法施行規則第	9 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間

	T		
		6U53-F811-17-S2	
名	称	~	
	1		
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40	
外 径	mm	114. 3	
【設定根拠】			
(概要)			
本配管は, 6U53-F	811–17–S2 ਟ	を接続する配管であり,	
	内で発生した	火災を早期に消火するために設置する。	
1. 最高使用圧力			
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使	
用圧力と同じ4.8M	IPaとする。		
2. 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は, 用ハロゲン化物ボンベの最高使			
用温度と同じ40℃	とする。		
3. 外径			
		ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス	
量*2を10秒以内*3	に放射可能で	であることをメーカにて確認している114.3mmとする。	
		第 20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの	
放射圧力			
*2 : 消防	*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な		
ハロ	ゲン化物消	火剤量	
*3:消防	法施行規則	第 20 条第1項第三号において定められている放射時間	

		6U53-F811-17-S3	
名	称	~	
最高使用圧力	り MPa	4. 8	
最高使用温度	变 ℃	40	
外	圣 mm	76. 3	
【設定根	処】		
(概要)			
本配管は, 6U5	53-F811-17-S3	と を接続する配管であり,	
内	で発生した火	災を早期に消火するために設置する。	
1. 最高使用压力	カ		
本配管の最高	高使用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使	
用圧力と同じ4	1.8MPaとする。		
2. 最高使用温度	· 变		
本配管の最高使用温度は, 用ハロゲン化物ボンベの最高使			
用温度と同じ4	10°Cとする。		
3. 外径			
本配管の外径	圣は、噴射へッ	ルドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス	
量*2を10秒以口	内*3に放射可能	どであることをメーカにて確認している76.3mmとする。	
注記*1:	消防法施行規則	川第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの	
	放射圧力		
*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な			
	ハロゲン化物消		
*3 :	消防法施行規則	川第20条第1項第三号において定められている放射時間	

		-,	用ハロゲン化物ボンベ
名	1	弥	~
 最高使用圧	カ	MPa	4.8
最高使用温		$^{\circ}$ C	40
外	径	mm	89. 1, 48. 6
【設定根	拠】		
(概要)			
本配管は,	用	ハロゲン化	と物ボンベと を接続する配管であり, 内で発生した火災を
早期に消火する	らため	に設置する	
	- _L,		
1. 最高使用日本配管の最		田圧力は「	 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとす
本配員の現る。	又可厌	/77/14,	
3 0			
2. 最高使用温	温度		
本配管の最	最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。
3. 外径			
			・ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒り	人内*3	に放射可能	であることをメーカにて確認している89.1mm, 48.6mmとする。
注記*1:	: 消防	法施行規則	第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
		·圧力	7/ - · · / · / · · · · · · · · · · · · ·
*2	:消防	法施行規則	川第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
	ハロ	ゲン化物消	当火剤量
*3	:消防	法施行規則	川第 20 条第1項第三号において定められている放射時間

		RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	139. 8, 114. 3

(概要)

本配管は、RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベとRIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室を接続する配管であり、RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は, RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,RIP-ASD(C)(D)(G)(J)(K)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40Cとする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している139.8mm, 114.3mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
	T	
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3
【設定根拠】		
(概要)		
本配管は, 	用ハロ	ュゲン化物ボンベと を接続する配管であり,
内で発生した火災	を早期に消	が大するために設置する。
1. 最高使用圧力	_	
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPa
とする。		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃と
する。		
0 44.57		
3. 外径 オ歌等の外径は	- 盛针。、	,ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス
		であることをメーカにて確認している114.3mmとする。
里 在104分以内	(二//文分) 門 肥	$\mathcal{L}(\mathcal{O})$
注記 * 1 · 消防	法施行担目	第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの
) 医温力测点 圧力	
		第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な
	ゲン化物消	
		川第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間
1		

名称		A 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室, AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベ へ A 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室,
		AM バッテリー室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3, 89. 1, 76. 3, 48. 6

(概要)

本配管は、A系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室、AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベと A系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室、AM バッテリー室を接続する配管であり、A系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A) サージタンク室、AM バッテリー室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*¹及び消火に必要なHFC-227eaガス量*²を10秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している114.3mm, 89.1mm, 76.3mm, 48.6mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		用ハロゲン化物ボンベ
名		~
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	114. 3
【設定根拠】	1	
(概要)		
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベとを接続する配
管であり,	F	内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
	_	
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と
同じ4.8MPaとする	0	
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と
同じ40℃とする。		
3. 外径		
本配管の外径は	,噴射ヘッドの	の放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス
量*2を10秒以内*3	に放射可能であ	あることをメーカにて確認している114.3mmとする。
注記*1 :消防	法施行規則第	20 条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの
放射	圧力	
*2 :消防	i法施行規則第	20 条第3項第一号において定められている消火に必要な
ハロ	ゲン化物消火	剤量
*3 :消防	法施行規則第	20 条第1項第三号において定められている放射時間

		RIP 点検室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		RIP 点検室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	89. 1, 48. 6

(概要)

本配管は、RIP点検室用ハロゲン化物ボンベとRIP点検室を接続する配管であり、RIP点検室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、RIP点検室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、RIP点検室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上 *1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量 *2 を10秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 48.6mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		B 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B) サージタンク室用
<i>h</i>	T.L.	ハロゲン化物ボンベ
名		~
		B 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B) サージタンク室
最高使用圧力	MPa	4. 8
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	114. 3

(概要)

本配管は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ボンベとB系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室を接続する配管であり、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B) サージタンク室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40%とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している114.3mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機 HECW(A)(C)冷凍機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	60. 5, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベと6号機HECW(A)(C)冷凍機室を接続する配管であり、6号機HECW(A)(C)冷凍機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		6 号機 HECW(B) (D) 冷凍機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	60. 5, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベと6号機HECW(B)(D)冷凍機室を接続する配管であり、6号機HECW(B)(D)冷凍機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス 量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機常用バッテリー (250V・48V) 室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機常用バッテリー(250V・48V)室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	42.7, 34.0

(概要)

本配管は、6号機常用バッテリー(250V・48V)室用ハロゲン化物ボンベと6号機常用バッテリー(250V・48V)室を接続する配管であり、6号機常用バッテリー(250V・48V)室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機常用バッテリー(250V・48V)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機常用バッテリー(250V・48V)室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40^{\circ}Cとする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス 量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	60. 5, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベと6号機C/B常用電気品 区域送・排風機室を接続する配管であり、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室内で発生した火 災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの 最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの 最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)送風機室用
kī s	Eh-	ハロゲン化物ボンベ
名		~
		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)送風機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	48.6, 42.7

(概要)

本配管は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ボンベと6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室を接続する配管であり、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス 量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		用 III、II III II		
名	弥	ハロゲン化物ボンベ		
		~		
		6U53-F831-8-S1, S2, S3, S4		
最高使用圧力	MPa	4.8		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40		
外径	mm	114. 3, 76. 3		
【設定根拠】				
(概要)				
本配管は,		用ハロゲン化物ボンベと		
6U53-F831-8-S1, S2	, S3, S4 8	を接続する配管であり,		
内で	発生したが	く災を早期に消火するために設置する。		
1. 最高使用圧力				
本配管の最高使	本配管の最高使用圧力は,			
ゲン化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ4.8MPaとする。		
2. 最高使用温度				
本配管の最高使	用温度は,	用ハロ		
ゲン化物ボンベの	最高使用温	温度と同じ40℃とする。		
3. 外径				
本配管の外径は	,噴射へッ	,ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス		
量*2を10秒以内*3	に放射可能	きであることをメーカにて確認している114.3mm, 76.3mmとする。		
注記*1 : 消防	法施行規則	川第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの		
放射	·圧力			
*2 :消防	法施行規則	川第20条第3項第一号において定められている消火に必要な		
ハロ	ゲン化物消	肖火剤量		
*3 :消防	法施行規則	川第20条第1項第三号において定められている放射時間		

名 称			
名			
最高使用圧力 MPa 4.8			
最高使用温度 ℃ 40			
外 径 mm 76.3, 48.6			
【設 定 根 拠】			
(概要)			
本配管は、6U53-F831-8-S1と			
を接続する配管であり、			
内で発生した火災を早期に消火するために設置する。			
1. 最高使用圧力			
本配管の最高使用圧力は, 用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。			
2. 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は, 用ハロ			
ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。			
3. 外径			
本配管の外径は,噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea カ			
量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。			
注記*1 :消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの			
放射圧力			
*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な			
ハロゲン化物消火剤量			
*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間			

		6U53-F831-8-S2		
		~		
名	称			
最高使用圧力	MPa	4.8		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40		
外径	mm	76. 3, 48. 6		
【設定根拠】				
(概要)				
本配管は, 6U53-F				
	る配管であ	-		
内で発生	した火災を	と早期に消火するために設置する。		
1 是宣估田压力				
	1. 最高使用圧力			
	本配管の最高使用圧力は, 用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。			
) v	X111 (X/11/12			
】 2. 最高使用温度	2. 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は,用ハロ				
ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。				
3. 外径				
本配管の外径は	、噴射へッ	,ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス		
量*2を10秒以内*3	に放射可能	であることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。		
	ī法施行規則 圧力	川第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの		
*2 : 消防	5法施行規則	川第20条第3項第一号において定められている消火に必要な		
ハロ	ゲン化物消	当火剤量		
*3 : 消防	5法施行規則	第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間		

		T			
		6U53-F831-8-S3			
】 名 ⁵	称	~			
	, ,				
	T				
最高使用圧力	MPa	4. 8			
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40			
外径	mm	76. 3, 48. 6			
【設定根拠】					
(概要)					
本配管は, 6U53-F					
	る配管であ				
内で発生	した火災を	と早期に消火するために設置する。			
	1. 最高使用圧力				
	本配管の最高使用圧力は, 用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。				
ケン化物ホンベの	敢 局使用灶	:刀と同じ4.8MPaとする。			
2 具京徒田洱庇					
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は, 用ハロ				
本配管の最高使用温度は, 用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。					
7 2 1 L 10 M 2 · (0)	,取同饮用值	EXCIPICATOR Y So			
3. 外径					
	、噴射へッ	・ ・ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス			
		きであることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。			
	. ,,,,,,,,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
 注記 * 1 :消防	方法施行規則	第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの			
放射	 				
*2 : 消防	方法施行規則	第20条第3項第一号において定められている消火に必要な			
ハロ	ゲン化物消	5人剤量			
*3 : 消防	5法施行規則	川第20条第1項第三号において定められている放射時間			

		auto poot o at			
		6U53-F831-8-S4			
名	称	~			
最高使用圧力	MPa	4. 8			
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40			
外径	mm	76. 3, 48. 6			
【設定根拠】					
(概要)					
本配管は, 6U53-F	831-8-S4 8				
	る配管であ				
内で発生	した火災を	・早期に消火するために設置する。			
1. 最高使用圧力	. — — Г	1			
本配管の最高使	-	用ハロ			
ケン化物ホンペの	最高使用圧	E力と同じ4.8MPaとする。			
9 是宣徒田沮庶					
	2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は, 用ハロ				
本能量の取同使用価度は、					
	- N 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
3. 外径					
本配管の外径は	、噴射へッ	,ドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス			
量*2を10秒以内*3	に放射可能	Eであることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。			
注記*1 : 消防	法施行規則	第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの			
放射圧力					
*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な					
ハロ	ゲン化物消	当火剤量			
*3:消防	法施行規則	川第20条第1項第三号において定められている放射時間			

名称		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ 〜
		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベと6号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室を接続する配管であり、6号機 C/B 計測制御電源盤区域(A)送・排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス 量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

名称		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用 ハロゲン化物ボンベ 〜
		6 号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は,6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ボンベと6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室を接続する配管であり,6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機C/B計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス 量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		非管理区域アクセス通路(C/B B1F)用ハロゲン化物ボンベ
名		~
		非管理区域アクセス通路(C/B B1F)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	60. 5, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ボンベと非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) を接続する配管であり、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、非管理区域アクセス通路(C/B B1F)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、非管理区域アクセス通路(C/B B1F)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 Cとする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		6 号機常用ケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	42.7, 34.0

(概要)

本配管は、6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベと6号機常用ケーブル処理室を接続する配管であり、6号機常用ケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス 量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機区分Ⅰケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベ
名	脉	\sim
		6 号機区分 I ケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	42. 7

(概要)

本配管は、6号機区分 I ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベと6号機区分 I ケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分 I ケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機区分 I ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		6 号機区分Ⅱケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	42. 7

(概要)

本配管は、6号機区分 Π ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベと6号機区分 Π ケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分 Π ケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベ
名		~
		6 号機区分Ⅲケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!$	40
外径	mm	42. 7

(概要)

本配管は、6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベと6号機区分Ⅲケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分Ⅲケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機ダクトスペース (C-3-7)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	42.7, 34.0

(概要)

本配管は、6号機ダクトスペース(C-3-7)用ハロゲン化物ボンベと6号機ダクトスペース(C-3-7)を接続する配管であり、6号機ダクトスペース(C-3-7)内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機ダクトスペース(C-3-7)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40° とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス 量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		6 号機中央制御室再循環フィルタ装置室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ボンベと6号機中央制御室再循環フィルタ装置室を接続する配管であり、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ボンベの 最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ボンベの 最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス 量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機中央制御室送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	76. 3, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベと6号機中央制御室送・排風機室を接続する配管であり、6号機中央制御室送・排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用 圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用 温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2: 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

		6 号機ケーブル処理室(C-4-2)用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		6 号機ケーブル処理室 (C-4-2)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	42. 7

(概要)

本配管は、6号機ケーブル処理室(C-4-2)用ハロゲン化物ボンベと6号機ケーブル処理室(C-4-2)を接続する配管であり、6号機ケーブル処理室(C-4-2)内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機ケーブル処理室(C-4-2)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	\sim
		パイプスペース (R-1-29)
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	48.6, 42.7

(概要)

本配管は、パイプスペース(R-1-29)用ハロゲン化物ボンベとパイプスペース(R-1-29)を接続する配管であり、パイプスペース(R-1-29)内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、パイプスペース(R-1-29)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40° とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス 量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		R/B~C/B区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		R/B~C/B 区分 I トレンチ
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	76. 3, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、 $R/B\sim C/B$ 区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベと $R/B\sim C/B$ 区分 I トレンチを接続する配管であり、 $R/B\sim C/B$ 区分 I トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R/B~C/B区分Iトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、 $R/B\sim C/B区分I$ トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40%とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している76.3mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機常用電気品室, 6 号機常用バッテリー (250V) 室,
		R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ボンベ
名	陈	~
		6 号機常用電気品室,6 号機常用バッテリー(250V)室,
		6U53-F831-1-S1, 6U53-F831-22-S1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 76. 3, 60. 5, 48. 6, 42. 7, 34. 0

(概要)

本配管は,6号機常用電気品室,6号機常用バッテリー(250V)室,R/B~C/B区分II・III・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベと6号機常用電気品室,6号機常用バッテリー(250V)室,6U53-F831-1-S1,6U53-F831-22-S1を接続する配管であり,6号機常用電気品室,6号機常用バッテリー(250V)室,R/B~C/B区分II・III・IVトレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー (250V) 室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー(250V)室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6U53-F831-1-S1
名	称	\sim
		6 号機常用電気品室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、6U53-F831-1-S1 と 6 号機常用電気品室を接続する配管であり、6 号機常用電気品室 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー(250V)室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー(250V)室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6U53-F831-22-S1
名	称	~
		R/B∼C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1

(概要)

本配管は、6U53-F831-22-S1 と R/B \sim C/B 区分 II ・III ・IV トレンチを接続する配管であり、R/B \sim C/B 区分 II ・III ・IV トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー(250V)室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー(250V)室、R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・IVトレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		6 号機下部中央制御室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	60. 5, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベと6号機下部中央制御室を接続する配管であり、6号機下部中央制御室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス 量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 42.7mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

		6 号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベ
名		~
		6 号機プロセス計算機室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	60. 5, 48. 6, 42. 7

(概要)

本配管は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベと6号機プロセス計算機室を接続する配管であり、6号機プロセス計算機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名		6 号機計算機用トランス室用 ハロゲン化物ボンベ 〜
		6 号機計算機用トランス室
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	48. 6, 42. 7, 34. 0

(概要)

本配管は、6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ボンベと6号機計算機用トランス室を接続する配管であり、6号機計算機用トランス室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上 *1 及び消火に必要なハロン1301ガス 量 *2 を30秒以内 *3 に放射可能であることをメーカにて確認している48.6mm, 42.7mm, 34.0mmと する。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量

2.2.4 SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備主配管

名	称	SLC ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ~SLC(A) 噴射ヘッド 4
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	89. 1, 60. 5, 34. 0

【設定根拠】

(概要)

本配管は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとSLC(A)噴射ヘッド4を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量 *²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 60.5mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(A) 分岐点 1~SLC(A) 噴射ヘッド 1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(A)分岐点1 & SLC(A)噴射ヘッド1を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(A)分岐点 2~SLC(A)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(A)分岐点2とSLC(A)噴射ヘッド2を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(A)分岐点 3~SLC(A)噴射ヘッド 3
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(A)分岐点3とSLC(A)噴射ヘッド3を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ~SLC(B)噴射ヘッド 4
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	89. 1, 60. 5, 34. 0

(概要)

本配管は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとSLC(B)噴射ヘッド4を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 60.5mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(B)分岐点 1~SLC(B)噴射ヘッド 1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(B)分岐点1 & SLC(B)噴射ヘッド1を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(B)分岐点 2~SLC(B)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(B)分岐点2 & SLC(B)噴射ヘッド2 & E接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	SLC(B)分岐点 3~SLC(B)噴射ヘッド 3
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、SLC(B)分岐点3とSLC(B)噴射ヘッド3を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名		CRD ポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ~CRD(A)分岐点 1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	89. 1, 60. 5, 48. 6, 42. 7, 34. 0

(概要)

本配管は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとCRD(A)分岐点1を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(A)分岐点 1~CRD(A)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(A)分岐点 $1 \ge CRD(A)$ 噴射ヘッド2を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(A)分岐点 2~CRD(A)噴射ヘッド 1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(A)分岐点2とCRD(A)噴射ヘッド1を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(A)分岐点 1~CRD(A)噴射ヘッド 4
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(A)分岐点 $1 \ge CRD(A)$ 噴射ヘッド4を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(A)分岐点 3~CRD(A)噴射ヘッド 3
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(A)分岐点 $3 \ge CRD(A)$ 噴射ヘッド3を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ~CRD(B) 噴射ヘッド 4
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	89. 1, 60. 5, 48. 6, 42. 7, 34. 0

(概要)

本配管は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとCRD(B)噴射ヘッド4を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカにて確認している89.1mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(B)分岐点 1~CRD(B)噴射ヘッド 1
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(B)分岐点 $1 \ge CRD(B)$ 噴射ヘッド1を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(B)分岐点 2~CRD(B)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(B)分岐点2とCRD(B)噴射ヘッド2を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は, CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

名	称	CRD(B)分岐点 3~CRD(B)噴射ヘッド 3
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	34. 0

(概要)

本配管は、CRD(B)分岐点 $3 \lor CRD(B)$ 噴射ヘッド $3 \lor E$ 接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカにて確認している34.0mmとする。

注記*1:消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの

放射圧力

*2:消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要な

ハロゲン化物消火剤量

2.2.5 電源盤·制御盤消火設備主配管

名	称	MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベ〜MCC 盤 6A-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

【設定根拠】

(概要)

本配管は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベとMCC盤6A-2-1を接続する配管であり、MCC盤6A-2-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

名	称	MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ボンベ〜MCC 盤 6B-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ボンベとMCC盤6B-2-1を接続する配管であり、MCC盤6B-2-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPa とする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

名	称	MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ボンベ〜MCC 盤 6SB-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ボンベとMCC盤6SB-1を接続する配管であり、MCC盤6SB-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名	称	MCC 6S 用ハロゲン化物ボンベ〜MCC 盤 6S
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、MCC 6S用ハロゲン化物ボンベとMCC盤6Sを接続する配管であり、MCC盤6S内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、MCC 6S用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、MCC 6S用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名	称	CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ボンベ〜CUW FPC F/D盤
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ボンベとCUW FPC F/D盤を接続する配管であり、CUW FPC F/D盤内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6 MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

2.2.6 ケーブルトレイ消火設備主配管

		R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

【設定根拠】

(概要)

本配管は、R-B3F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-②-1用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-2-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-2-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R−B3F−③−1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-3-1用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-3-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-③-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-3-2用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-3-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-③-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-3-3用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-3-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-3-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-④-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-4-1用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-4-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-4-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-④-2用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B3F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベとR-B3F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-②-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-2)-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-20-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-②-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-4用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-20-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-5用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-20-6
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-6用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-②-7
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-②-7用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-②-7を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-7用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-②-7用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-③-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-3-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-3-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-③-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-3-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-3-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-③-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-3-3用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-3-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-3-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-4-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-4-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-4-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-4-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-④-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑥-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑥-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑥-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑥-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑦-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑦-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B2F-⑦-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ボンベとR-B2F-⑦-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-②-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-②-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-2-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-③-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-3-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-3-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-③-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-③-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-3-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-3-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-③-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-④-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-④-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-④-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-4-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-④-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-④-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-4-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-④-3用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-④-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-④-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-4-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-④-4用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-④-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-④-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-4-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-④-5用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-④-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-④-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-⑥-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-⑥-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-B1F-⑥-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベとR-B1F-⑥-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-1F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-①-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-①-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-①-4用ハロゲン化物ボンベとR-1F-①-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-①-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-①-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		R-1F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-2-1用ハロゲン化物ボンベとR-1F-2-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-2-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-2-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40^{\circ}Cとする。

3. 外径

		R-1F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-2-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-②-4用ハロゲン化物ボンベとR-1F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-2-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-2-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-②-5用ハロゲン化物ボンベとR-1F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-③-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-3-1用ハロゲン化物ボンベとR-1F-3-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-3-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-3-2用ハロゲン化物ボンベとR-1F-3-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-③-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-3-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-3-3用ハロゲン化物ボンベとR-1F-3-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-3-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-3-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-③-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-③-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-3-4用ハロゲン化物ボンベとR-1F-3-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-3-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-3-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-③-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-③-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-3-5用ハロゲン化物ボンベとR-1F-3-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-3-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-3-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-4-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-4-1用ハロゲン化物ボンベとR-1F-4-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-4-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-4-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-4-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-4-2用ハロゲン化物ボンベとR-1F-4-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-4-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-4-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-4-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-4-3用ハロゲン化物ボンベとR-1F-4-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-④-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-4-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-4-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-4-4用ハロゲン化物ボンベとR-1F-4-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-4-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-4-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-2F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-2F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-2F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-2F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-2-1用ハロゲン化物ボンベとR-2F-2-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-2F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-2F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-②-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-②-4用ハロゲン化物ボンベとR-2F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-②-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-2-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-②-5用ハロゲン化物ボンベとR-2F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-②-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40^{\circ}Cとする。

3. 外径

		R-2F-②-6 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-2-6
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-②-6用ハロゲン化物ボンベとR-2F-②-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-②-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-③-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-3-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-3-1用ハロゲン化物ボンベとR-2F-3-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-3-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-③-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-3-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-3-2用ハロゲン化物ボンベとR-2F-3-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-3-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-①-1用ハロゲン化物ボンベとR-3F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-3F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-①-2用ハロゲン化物ボンベとR-3F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-3F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-3F-①-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-①-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-①-3用ハロゲン化物ボンベとR-3F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-①-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-3F-①-4 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-①-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-①-4用ハロゲン化物ボンベとR-3F-①-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-3F-①-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-①-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-3F-①-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-①-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-①-5用ハロゲン化物ボンベとR-3F-①-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-3F-①-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-①-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		C-1F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		C-1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、C-1F-①-1用ハロゲン化物ボンベとC-1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、C-1F-①-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,C-1F-1-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40^{\circ}とする。

3. 外径

		C-1F-①-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		C-1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、C-1F-①-2用ハロゲン化物ボンベとC-1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、C-1F-①-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,C-1F-1-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40^{\circ}とする。

3. 外径

		C-1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		C-1F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、C-1F-②-1用ハロゲン化物ボンベとC-1F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、C-1F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,C-1F-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 C とする。

3. 外径

		C-1F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		C-1F-2)-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、C-1F-②-2用ハロゲン化物ボンベとC-1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,C-1F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,C-1F-2-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 C とする。

3. 外径

		C-1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		C-1F-2)-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、C-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベとC-1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、C-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,C-1F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 C とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-(5)-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40[°]Cとする。

3. 外径

		R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ボンベ
名 称		~
		R-1F-⑤-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-⑤-5
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-⑤-6
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-1F-⑤-7
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ボンベとR-1F-⑤-7を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-④-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-4-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-4-1用ハロゲン化物ボンベとR-2F-4-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-4-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-4-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-④-2 用ハロゲン化物ボンベ
名 称		~
		R-2F-40-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-4-2用ハロゲン化物ボンベとR-2F-4-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-4-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-4-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-④-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-2F-4-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-4-3用ハロゲン化物ボンベとR-2F-4-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-2F-④-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-4-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-2F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ
名称		~
		R-2F-4-4
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-2F-4-4用ハロゲン化物ボンベとR-2F-4-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-2F-4-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-2F-4-4用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-3F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	\sim
		R-3F-2-1
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-②-1用ハロゲン化物ボンベとR-3F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、R-3F-②-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-3F-②-2 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-2-2
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-②-2用ハロゲン化物ボンベとR-3F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-3F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-②-2用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 $^{\circ}$ とする。

3. 外径

		R-3F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ
名	称	~
		R-3F-2)-3
最高使用圧力	MPa	4. 6
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、R-3F-②-3用ハロゲン化物ボンベとR-3F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は,R-3F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は,R-3F-②-3用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

2.2.7 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備主配管

			中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用
名称			ハロゲン化物ボンベ
			~
			東側 供給ライン分岐点
最高使用圧	力	MPa	5. 2
最高使用温	且度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外	径	mm	
【設定根	拠】	I	
(概要)			
I —			リーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベと
東側 供給	ライン	分岐点を接	終続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で
発生した火災を	を早期	に消火する	らために設置する。
	 1		
1. 最高使用原		田口十つ	中中制御亭内下っり、マカトラフロマ巡走乳港(MONT)田、戸岸
		•	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ Jと同じ5.2MPaとする。
- 2 1円400 V/ 2。	トリノ取	同使用压力	J と PJ しも. ZMF a と y る。
2. 最高使用	温度		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ
	ン化物ボンベの最高使用温度と同じ40°Cとする。		
3. 外径			
本配管	の外径	は, メーカ	つの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することが
できる	nmと	する。	

名	称	西側 供給ライン分岐点 ~
711 /	1/1	西側 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	
【設定根拠】	l	
(概要)	_	
		ン分岐点と西側 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央
制御室床下フリーア	クセスフロ	7ア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力		
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	田圧力は	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ
	•	」と同じ5.2MPaとする。
1 12 174 1 1 2 7 12		
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲ
ン化物ボンベの最	:高使用温度	Eと同じ40℃とする。
3. 外径	·) hā	>⇒4FΔが出たせるもしハよいよい1001ポラ目を供めよってしかっ
本配官の外径は きる)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することがで
a ⊘mii ⊂ 9 ?	o	

		西側 供給ライン分岐点
名称		~ エ側 ■ 供外ラフン1 八叶 5.7.7.1
		西側 供給ライン分岐点,西側 供給ライン 1 分岐点及び 西側 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	
【設定根拠】		
(概要)	_	
		ン分岐点と西側 供給ライン分岐点,西側 供給ライン1分岐点
		を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内
で発生した火災を早	期に消火す	るために設置する。
1. 最高使用圧力		
	用圧力は.	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ
	•	Jと同じ5.2MPaとする。
2. 最高使用温度		
本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ		
ン化物ボンベの最	高使用温度	と同じ40℃とする。
3. 外径		
—	、メーカの	対験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することがで
きる mとする		

		西側 供給ライン分岐点
名		~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		西側 供給ライン分岐点		
】 名	弥	~		
		西側 供給ライン 2 分岐点		
		及び西側 供給ライン3分岐点		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40		
外径	mm			
【設定根拠】				
(概要)				
		ン分岐点と西側 供給ライン2分岐点及び西側 供給ライン3分		
		中制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消		
火するために設置す	る。			
 1. 最高使用圧力				
	田圧力は	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲ		
		「一大門脚重パープラープラセスプログロ人民婦(NON)用ハログ Jと同じ5.2MPaとする。		
) C [2] 00. 2 m d C / 00		
┃ ┃2. 最高使用温度	2 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲ				
ン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。				
3. 外径				
本配管の外径は	, メーカの	対験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することがで		
きる mとする	5.			

		西側 供給ライン 1 分岐点
名	称	~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン1分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		西側 供給ライン 2 分岐点
名	陈	~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 共給ライン2分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		西側 供給ライン3分岐点
名	称	~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン3分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

				
		西側 供給ライン1分岐点		
名	称	〜 西側 ── 供給ライン 4 分岐点		
		及び西側 供給ライン 7 分岐点		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40		
外径	mm			
【設定根拠】				
(概要)				
本配管は,西側	供給ライ	ン1分岐点と西側		
岐点を接続する配管	であり、中	中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消		
火するために設置す	-る。			
1. 最高使用圧力	- III - I - I - I - I - I - I - I - I -			
	•	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン:同じ5.2MPaとする。		
10物がン・20月取ら	が使用圧力で	- [P] Co. ZMraと 9 る。		
】 2. 最高使用温度	2 最高使用温度			
	本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン			
化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。				
3. 外径				
)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ		
る mとする。				

		西側 供給ライン4分岐点
名	称	~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン4分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		西側 供給ライン5分岐点
名	称	~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン5分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		西側 給ライン6分岐点
名		~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン6分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名称		西側 供給ライン 7 分岐点 ~
		西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン7分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側 供給ライン分岐点			
名	弥	~			
	16	東側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点			
最高使用圧力	MPa	5. 2			
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40			
外径	mm				
【設定根拠】					
(概要)]				
		ン分岐点と東側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐			
		·制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火			
するために設置する	0				
 1. 最高使用圧力					
	田圧力は	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン			
		一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一			
「日初れて「の対対日	区/11/上/17				
┃ ┃2. 最高使用温度					
	用温度は.	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン			
本配官の最高使用温度は、中央制御室ボドブリーアグセスプロア相外設備(NON)用バログブ 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。					
3. 外径					
本配管の外径は	, メーカの)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ			
る mmとする。					

			東側 供給ライン分岐点
	名		~
			東側 供給ライン 1 分岐点
最高	使用圧力	MPa	5. 2
最高	使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外	径	mm	
【設	定根拠】		
(概要	<u>(</u>)		
本配	管は, 東側	供給ライン	√分岐点と東側 給ライン1分岐点を接続する配管であり、中央
制御室	床下フリーア	クセスフロ	1ア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
	:高使用圧力		
			中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン
化物	ボンベの最高	使用圧力と	:同じ5.2MPaとする。
	高使用温度		
			中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン
化物	ボンベの最高	使用温度と	:同じ40℃とする。
o <i>t</i> al	<i>4</i> ▼		
	経の単名は). In a	\ラチΦクサ用に甘ざも「ハみぃぃヽ1901ヸヵ見む#がよファしぶって
る	配官の外径は mとする。)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ
ລ_	m~95°		

		東側 供給ライン2分岐点
名	陈	~
		東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン2分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

東	側 供給ライン1分岐点
名称	~
	側 供給ライン4分岐点
最高使用圧力 MPa	5. 2
最高使用温度 ℃	40
外 径 mm	
【設定根拠】	
(概要)	
本配管は、東側 共給ライン1分岐点と東側 サ	
央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火	災を早期に消火するために設置する。
1. 最高使用圧力	
1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は,中央制御室床下フリ [、]	ーアクセスフロア消水設備(NON)田ハロゲン
化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。	アクロハフログ HACKIM (NOII) / HACKI
2. 最高使用温度	
本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリ	ーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン
化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。	
3. 外径	
本配管の外径は、メーカの試験結果に基づき十	分なハロン1301ガス量を供給することができ
る mmとする。	

		東側 供給ライン3分岐点
名	称	~
		東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン3分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側 供給ライン 4 分岐点
名	称	~
		東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン4分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

			東側 供給ライン分岐点
	名	称	~
		T	東側 供給ライン分岐点
最高	使用圧力	MPa	5. 2
最高	使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外	径	mm	
【設	定根拠】		
(概要			
			ン分岐点と東側 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央
制御室	床下フリーア	ウセスフロ	7ア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。
, ,	本		
	高使用圧力 ・配答の是真体	田二十八	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン
			中央制御室体下フリーアクセスフロア相欠設備(NON)用バログン:同じ5.2MPaとする。
161%	(ハン・ヘン)取同	火/ 上/] こ	- [F] CO. 2MI a C y O ₀
2. 最	:高使用温度		
		用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON) 用ハロゲン
化物	ボンベの最高	使用温度と	:同じ40℃とする。
3. 外	·径		
本	配管の外径は	、, メーカ <i>の</i>	う試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ
る	mとする。		
1			

		東側 供給ライン1分岐点
名	陈	~
		東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン1分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名	称	東側 供給ライン分岐点 ~
		東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(NON)用ハロゲン 化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)月 ハロゲン化物ボンベ 名 称
〜
最高使用圧力 MPa 5.2
最高使用温度 °C 40
外 径 mm

			供給ライン分岐点
	名	称	~
		1	東側 供給ライン分岐点
最高值	更用 圧 力	MPa	5. 2
最高值	更用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外	径	mm	
【設 分	官根 拠】		
(概要)			
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		岐点と東側 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御
室床下に	フリーアクセ	スフロア内	7で発生した火災を早期に消火するために設置する。
	高使用圧力 3年の見事は	·田⊏士샤	中央制御中央アクルーマをレックロマ巡走部は(ロハエ)田、中
		•	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロ
7 21	と物かン・、	アスログ 東京 東京 東京 東京 東京 はっぱい しょうしょう しょうしょ しょう しょう かいしょう しゅうしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	E力と同じ5.2MPaとする。
2. 最高	高使用温度		
,		5用温度は.	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅰ)用ハロ
			温度と同じ40℃とする。
3. 外往	圣		
本酉	記管の外径は	t, メーカの	試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ
る	mmとする。		

			西側 供給ライン分岐点	
	名	称	~	
			西側 供給ライン分岐点	
最高值	更 用 圧 力	MPa	5. 2	
最高信	吏用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40	
外	径	mm		
【設力	定 根 拠】			
(概要)				
本配行	萱は, 西側	供給ライ	ン分岐点と西側 共給ライン分岐点を接続する配管であり、中央	
制御室原	末下フリーア	クセスフロ	1ア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。	
	高使用圧力			
			中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロ	
ゲンイ	化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ5.2MPaとする。	
. =	÷ (+ m			
	高使用温度 日常の見言は			
			中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロ	
クン1	と物がンへの) 敢 尚 使 用 塩	温度と同じ40℃とする。	
3. 外	文			
		- メ ー カの)試験結果に其づき十分なハロン1301ガス長を供給することができ	
	本配管の外径は、メーカの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる mとする。			

名	称	西側 供給ライン分岐点 ~ 西側 PCPS 区分 I エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分 I エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分 I)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名	称	東側 供給ライン分岐点 ~
		東側 PCPS 区分 I エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分 I エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分 I)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分I)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用 ハロゲン化物ボンベ		
名	称	\sim		
		世代給ライン分岐点		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}$	40		
外径	mm			
【設定根拠】	1	<u>'</u>		
(概要)				
l		7リーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベと		
—		る配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生し		
│た火災を早期に消火 │	ごするために	ご設置する。		
 1. 最高使用圧力				
	1用圧力は	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロ		
		E力と同じ5.2MPaとする。		
, ,=,,,				
2. 最高使用温度	2. 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロ				
ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。				
3. 外径				
)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ		
るmとする。				

		供給ライン分岐点	
名	陈	~	
		西側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点	
最高使用圧力	MPa	5. 2	
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40	
外 径	mm		
【設定根拠】			
(概要)			
本配管は, 供給	給ライン分	岐点と西側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点を	
接続する配管であり	,中央制御	『室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火する	
ために設置する。			
1. 最高使用圧力			
本配管の最高使	用圧力は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロ	
ゲン化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ5.2MPaとする。	
2. 最高使用温度			
本配管の最高使	用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロ	
ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。			
3. 外径			
本配管の外径は	、, メーカの	対験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ	
る mとする。			

		西側 供給ライン分岐点		
名	弥	~		
		西側 供給ライン分岐点		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40		
外 径	mm			
【設定根拠】				
(概要)	_			
本配管は,西側	供給ライ	ン分岐点と西側 供給ライン分岐点を接続する配管であり,中央		
制御室床下フリーア	クセスフロ	1ア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。		
1. 最高使用圧力				
		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分II)用ハロ		
┃ ゲン化物ボンベの ┃	最高使用出	E力と同じ5.2MPaとする。		
0 月支は円沢床				
2. 最高使用温度	田油库は	中中判御安広下フリーアカセフフロア巡ル記牒(区八Ⅱ)田ハロ		
	本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。			
7 2 1640 W 2 * * * * * * * * * * * * * * * * * *	取同使用值	I/文 2 円 し40 し 2 す る。		
3. 外径				
	3. 外径 本配管の外径は、メーカの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ			
る mとする。	, , , ,,	The state of the s		

名		西側 <u></u> 供給ライン分岐点 ~
		西側 PCPS 区分 II エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分 II エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分II)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側██∰供給ライン分岐点	
名	称	~	
	1	東側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン 1 分岐点	
最高使用圧力	MPa	5. 2	
最高使用温度	${\mathcal C}$	40	
外 径	mm		
【設定根拠】			
(概要)			
本配管は,東側	供給ライ	ン分岐点と東側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン1分岐	
点を接続する配管で	であり、中央	·制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火	
するために設置する	5.		
1. 最高使用圧力			
	•	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロ	
ゲン化物ボンベの	つ最高使用圧	E力と同じ5.2MPaとする。	
2. 最高使用温度			
本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。			
ケン化物ホンペ0 	7) 最高使用温	a度と同じ40℃とする。	
3. 外径			
. —	ナーナーカの)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ	
る。これとする	•	が成れたに至って「ガなパロン1001ルハ重を戻れすることがくさ	
	0		

		東側 供給ライン分岐点
名	称	~
		東側 PCPS 区分Ⅱエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分 II エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分II)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側 供給ライン 1 分岐点
名	陈	~
		東側 PCPS 区分Ⅱエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 共給ライン1分岐点と東側PCPS区分 II エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分II)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅱ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分III)用 ハロゲン化物ボンベ 〜 供給ライン分岐点
 最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	°C	40
		40
世籍ライン分岐がた火災を早期に消火 1. 最高使用圧力 本配管の最高使 ゲン化物ボンベの 2. 最高使用温度 本配管の最高使 ゲン化物ボンベの 3. 外径	点を接続すするために 用圧力は、 最高使用圧 最高使用温 よ、メーカの	フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベとる配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生して設置する。 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロモ力と同じ5.2MPaとする。 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロ温度と同じ40℃とする。 試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ

名		供給ライン分岐点~		
		西側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40		
外径	mm			
【設定根拠】				
(概要)				
		岐点と西側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点を 『京広エコル・スなトスファス中で彩作した小巛オーサルボルウス		
接続する配官であり ために設置する。	,甲央制体	軍室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火する		
ために放直する。				
1. 最高使用圧力				
本配管の最高使	用圧力は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロ		
ゲン化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ5.2MPaとする。		
2. 最高使用温度				
	本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロボンル状状が、この見声は円温度に同じは20人よって			
	ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。			
3. 外径				
本配管の外径は	<i>,メーカの</i>)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ		
る mとする。				

名	称	西側 供給ライン分岐点 ~
		西側 PCPS 区分Ⅲエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分Ⅲエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側 供給ライン分岐点
名	称	~
		東側 PCPS 区分Ⅲエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分Ⅲエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅲ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名	称	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用 ハロゲン化物ボンベ 〜 世人とは、 一人は、 ・一は、 一人は、 ・一は、 一人は、 一人は、 ・一は、 ・一は、		
最高使用圧力	MPa	5. 2		
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40		
外径	mm			
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅳ)用ハロゲン化物ボンベと 【供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。 1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅳ)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。 2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分Ⅳ)用ハロ				
3. 外径 本配管の外径は る mとする。		の試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ		

			供給ライン分岐点
	名	陈	~
			西側 供給ライン分岐点
最高	使用圧力	MPa	5. 2
最高	使用温度	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	40
外	径	mm	
【設力	定根拠	1	
(概要))		
本配?	管は,供約	合ライン分	岐点と西側供給ライン分岐点を接続する配管であり,中央制御
室床下	フリーアクセ	スフロア内	Pで発生した火災を早期に消火するために設置する。
1. 最高	高使用圧力		
本語	配管の最高使	用圧力は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロ
ゲンク	化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ5.2MPaとする。
2. 最	高使用温度		
本語	配管の最高使	用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロ
ゲンク	化物ボンベの	最高使用温	温度と同じ40℃とする。
3. 外			
本		•)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ
る	mとする。		
1			

名称		西側 供給ライン分岐点 ~
H	, ,	西側 PCPS 区分IVエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分IVエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		東側 供給ライン分岐点
名	陈	~
		東側 PCPS 区分IVエリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外 径	mm	

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分IVエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(区分IV)用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

		供給ライン分岐点
名	称	~
		PCPS 区分 SA(I)エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外 径	mm	
【設定根拠】		

(概要)

本配管は, 供給ライン分岐点とPCPS区分SA(I)エリアを接続する配管であり, 中央制御室床 下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(I))用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(I))用ハロ ゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。

3. 外径

名		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (II)) 用 ハロゲン化物ボンベ ~
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	°C	40
外径	mm	
【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は,中央制 一供給ライン分岐, た火災を早期に消火 1. 最高使用圧力 本配管の最高使 ゲン化物ボンベの 2. 最高使用温度 本配管の最高値 ゲン化物ボンベの 3. 外径	御室床下フ 点を接続す するために 用圧力は, 最高使用に 、メーカの	プリーアクセスフロア消火設備 (SA (II)) 用ハロゲン化物ボンベとる配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生しき設置する。 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (II)) 用ハロE力と同じ5.2MPaとする。 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (II)) 用ハロ温度と同じ40℃とする。 ○試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ

		供給ライン分岐点
名	称	~
		西側 供給ライン分岐点及び東側 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}$ C	40
外径	mm	
【設定根拠】	1	,
(概要)		
本配管は,供	給ライン分	岐点と西側 供給ライン分岐点及び東側 共給ライン分岐点を
接続する配管であり	,中央制御	室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火する
ために設置する。		
1. 最高使用圧力		
本配管の最高使	用圧力は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA(Ⅱ)) 用ハロ
ゲン化物ボンベの	最高使用日	E力と同じ5.2MPaとする。
2. 最高使用温度		
本配管の最高使	見用温度は,	中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロ
ゲン化物ボンベの	最高使用温	温度と同じ40℃とする。
3. 外径		
本配管の外径は	こ, メーカの)試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができ
る mとする。		

		西側 供給ライン分岐点
名		~
		西側 PCPS 区分 SA(II)エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\!\mathrm{C}$	40
外径	mm	

(概要)

本配管は、西側 供給ライン分岐点と西側PCPS区分SA(II)エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

		東側
名	称	~
		東側 PCPS 区分 SA(Ⅱ)エリア
最高使用圧力	MPa	5. 2
最高使用温度	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	40
外径	mm	
Tan A La La		

(概要)

本配管は、東側 供給ライン分岐点と東側PCPS区分SA(II)エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。

1. 最高使用圧力

本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA (II))用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5. 2MPaとする。

2. 最高使用温度

本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備(SA(II))用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40 \mathbb{C} とする。

3. 外径

VI-1-1-5-8-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書 (その他発電用原子炉の附属施設(補機駆動用燃料 設備(非常用電源設備及び補助ボイラーに係るもの を除く。))) 1. 概要 1

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設(補機駆動用燃料設備(非常用電源設備及び補助ボイラーに係るものを除く。))の申請設備に係る仕様設定根拠について説明するものである。

以下の設備の設備別記載事項の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-1-1-5-8-3「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書(その他発電用原子炉の附属施設(補機駆動用燃料設備(非常用電源設備及び補助ボイラーに係るものを除く。)))」による。

- ・ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク(5号機設備,6,7号機共用)
- ・可搬型代替注水ポンプ (A-1級) 燃料タンク (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級)燃料タンク(7号機設備,6,7号機共用)*
- ・大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)燃料タンク(7号機設備,6,7号機共用)
- ・大容量送水車(海水取水用)燃料タンク(7号機設備,6,7号機共用)
- ・大容量送水車(熱交換器ユニット用)燃料タンク(7号機設備,6,7号機共用)
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク~ディーゼル駆動消火ポンプ (5 号機設備, 6,7 号機共用)
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ~ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク (5 号機設備, 6,7 号機共用)

注記*:設備別記載事項の設定根拠に関する説明書の概要のうち、その他発電用原子 炉の附属施設のうち補機駆動用燃料設備として使用する場合の記載について、 「原子炉格納容器内における水素による爆発による破損を防止」を「原子炉 格納容器内における水素による爆発による破損及び原子炉建屋等の水素爆発 による損傷を防止」に、「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止」を「水 素爆発による原子炉格納容器の破損及び水素爆発による原子炉建屋等の損傷 を防止」に読み替える。 VI-1-1-5-8-4 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書(その他発電用原子炉の附属施設(非常用取水設備))

1.	概要 ・・・	 1
2.	取水設備	 2

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設(非常用取水設備)の申請設備に係る仕様設定根拠 について説明するものである。

以下の設備の設備別記載事項の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-1-1-5-8-4「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書(その他発電用原子炉の附属施設(非常用取水設備))」による。

- ・海水貯留堰(7号機設備,重大事故等時のみ6,7号機共用)
- ・海水貯留堰(重大事故等時のみ6,7号機共用)
- ・スクリーン室(7号機設備, 重大事故等時のみ6,7号機共用)
- ・スクリーン室(重大事故等時のみ6,7号機共用)
- ・取水路(7号機設備,重大事故等時のみ6,7号機共用)
- ・取水路(重大事故等時のみ6,7号機共用)

2. 取水設備

名	称	補機冷却用海水取水路
容量	m^3	2880 以上(10000)
個 数	_	1

【設定根拠】

(概要)

• 設計基準対象施設

補機冷却用海水取水路は,設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し,原子炉 補機冷却海水ポンプが機能維持でき,かつ,発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設 計とする。

- 重大事故等対処設備
- 6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水路の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。

1. 容量の設定根拠

設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水路の容量は、基準津波による引き波時において、海水面が海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A)、(B)、(C)を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)を下回る時間として想定される時間のうち、最大の約16分間*1にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6個)運転を継続した場合においても必要な水量である2880m³を確保できる設計*2とする。

重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水路の容量は、設計基準対象施設の使用時と同等であるため、設計基準対象施設と同仕様で設計し、2880m³を確保できる設計とする。

公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6 個)運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*²ため、海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位(T. M. S. L. -5240mm)の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量(海水貯留堰:6578m³,スクリーン室:1500m³及び取水路:2015m³)である 10000m³*³とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A)、(B)、(C)の各区間における容量を考慮していない。

V:容量(m³)

T:海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) =16

Q:原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) =1800

n:原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) =6

注記*1:保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置

を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明

書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3:各区間における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水路は,設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として,津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水路は,設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処 設備として使用する。

名	称	補機冷却用海水取水槽(A)
容量	\mathbf{m}^3	2880以上(10000)
個 数	_	1

(概要)

• 設計基準対象施設

補機冷却用海水取水槽(A)は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子 炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる 設計とする。

- 重大事故等対処設備
- 6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽(A)の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。

1. 容量の設定根拠

設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽(A)の容量は,基準津波による引き波時において,海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として,海水貯留堰,スクリーン室,取水路,補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A),(B),(C)を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち,最大の約16分間*1にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6個)運転を継続した場合においても必要な水量である2880m³を確保できる設計*2とする。

重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽(A)の容量は,設計基準対象施設の使用時と同等であるため,設計基準対象施設と同仕様で設計し,2880m3を確保できる設計とする。

公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6 個)運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*2 ため、海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位(T. M. S. L. -5240mm)の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量(海水貯留堰:6578m³、スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³)である 10000m³*3 とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A)、(B)、(C)の各区間における容量を考慮していない。

V:容量(m³)

T:海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) =16

Q:原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) =1800

n:原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) =6

注記*1:保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置

を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2:詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明

書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3:各区間における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(A)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(A)は,設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

名	称	補機冷却用海水取水槽(B)
容量	m^3	2880 以上(10000)
個 数	_	1

(概要)

• 設計基準対象施設

補機冷却用海水取水槽(B)は,設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し,原子炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき,かつ,発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設計とする。

- 重大事故等対処設備
- 6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽(B)の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。

1. 容量の設定根拠

設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽(B)の容量は,基準津波による引き波時において,海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として,海水貯留堰,スクリーン室,取水路,補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A),(B),(C)を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち,最大の約16分間*1にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6個)運転を継続した場合においても必要な水量である2880m³を確保できる設計*2とする。

重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽(B)の容量は,設計基準対象施設の使用時と同等であるため,設計基準対象施設と同仕様で設計し,2880m3を確保できる設計とする。

公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6 個)運転を継続した場合において も必要な水量である 2880m³ を確保する*²ため、海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)から 原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位(T. M. S. L. -5240mm)の水深と海水貯留堰、ス クリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量(海水貯留 堰:6578m³、スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³)である 10000m³*³とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A)、(B)、(C)の各 区間における容量を考慮していない。

V:容量(m³)

T:海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) =16

Q:原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) =1800

n:原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) =6

注記*1:保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置

を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明

書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3:各区間における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(B)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(B)は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

名	称	補機冷却用海水取水槽(C)
容量	m^3	2880 以上(10000)
個 数	_	1

(概要)

• 設計基準対象施設

補機冷却用海水取水槽(C)は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子 炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる 設計とする。

- 重大事故等対処設備
- 6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽(C)の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。

1. 容量の設定根拠

設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽(C)の容量は,基準津波による引き波時において,海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm)を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として,海水貯留堰,スクリーン室,取水路,補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A),(B),(C)を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm)を下回る時間として想定される時間のうち,最大の約16分間*1にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6個)運転を継続した場合においても必要な水量である2880m³を確保できる設計*2とする。

重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽(C)の容量は,設計基準対象施設の使用時と同等であるため,設計基準対象施設と同仕様で設計し,2880m³を確保できる設計とする。

公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個(6 個)運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*²ため、海水貯留堰天端高さ(T. M. S. L. -3500mm)から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位(T. M. S. L. -5240mm)の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量(海水貯留堰:6578m³,スクリーン室:1500m³及び取水路:2015m³)である 10000m³*3とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A)、(B)、(C)の各区間における容量を考慮していない。

V:容量(m³)

T:海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) =16

Q:原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) =1800

n:原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) =6

注記*1:保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置

を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明

書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3:各区間における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(C)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(C)は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

